

□ 情報提供項目

新型コロナウイルスのワクチン接種や市のイベントなどについて市長からお知らせした。

□ 記者との質疑応答

記者 先月、津波浸水想定で久慈市でも説明会を行ったと思うが、市民の方の意見や質問、今後の避難場所など必要なことが出てくると思うが、現時点でどのようなタイムスケジュールで進めて行こうと考えているのか。

市 4日間で住民説明を行い218の方が出席した。新聞等の報道もあり、関心が高かったと思われる。誘導看板や避難場所の資機材、避難場所のトイレ、寒さ対策が必要だと意見をいただいた。参加者の方は熱心に聞いてくださったように感じている。県の公表を受けて説明会を聞き、「自分がやるべきことをやらなければいけない」と思って帰っていただいたと思っている。今後も自助、共助、公助を組み合わせ命を守る取り組みを進めて行きたいと思っている。

ハザードマップは、年度内には印刷まで完了し全戸配布の予定である。令和5年度早々にハザードマップの説明会を行いたいと思っている。

避難所と避難経路の見直しは、これから実施する。津波避難計画の中で一定の時間内に避難できない地域があるかどうかを調査し、もしそのような場所があるようであれば、避難経路や避難場所等どうすればよいか、地域の方々と相談しながら進める必要があり、全体の避難場所等、検討して行かなければならない。地域に入り意見交換をするので、どうしても時間がかかると思っているが年度内に策定できればと考えている。

記者 車避難の話が出たが、久慈市は現状どのように感じているか。

市 総論としては専門家からは原則徒歩避難と言われている。現実には高齢者や歩行が難しい人もいるので車の必要性も感じているが、市として車避難を認めると混乱が生じる可能性もある。ぜひ自主防災組織を作ってください、地域と個別に話をしていく必要がある。徒歩避難できない人が何人いるのか等、自主防災組織を結成いただき検討してほしい。誰が誰に手助けをして、それが可能であるか。地域で状況が違う。防災対策の難しいところだと思っている。シュミレーションをしながら自主防災組織と一緒に進めて行きたい。

記者 庁舎のスケジュールは、どのようになっているのか。

市 ワーキンググループを今月中に立ち上げる予定。どういった検討項目があるのかの洗い出しや、それに伴う情報収集などメリットデメリットなどあらゆる想定を出しながら、具体的な検討をし、市民の皆さんの声を聞きながら進めて行きたい。

記者 ワーキンググループの規模や期間はどのようになっているのか。

市 財政課長を筆頭として、庁内各部の係長級の職員で構成したいと思っている。これから第1回のワーキンググループを開催し、そこでスケジュールを想定していきたい。

記者 国の特別給付金の外国人への誤給付だが、返還はどのような状況か

市 国内にいる人には、返還いただいている。すでに帰国している人がいるので、その方々については連絡先を調査中である。

記者 自主防災組織の100%を目指すということだが、そこに向けて市は何か取り組みをしているのか。

市 以前も取り組みを進めていたが、津波想定もあり更に市民センターと連携し、地域づくりの課題の一つとして地域防災にもテーマとし、各市民センターで話し合いを進めている。引き続き支援していきたい。

記者 インベナジーウインド（東京）が市内で計画している風力発電について。会社側から事業内容や作業工程に関する説明はどのようにされたのか。市は今後会社の計画について、どのように対応していくのか。

市 当該事業は（仮称）西久慈風力発電事業として、インベナジー・ウインド合同会社が環境影響評価法に基づく計画段階環境配慮書の縦覧を本年5月10日から6月8日にかけて実施したところと承知している。同社では山形地区自治会長等を対象とした事業説明会を去る6月6日に市山村文化交流センターおらほーるにおいて開催したところであり、久慈市港湾エネルギー推進課も開催には協力し、同席した。また、令和3年10月には、久慈市内において大規模再生可能エネルギー事業を導入する際、当該事業が地域経済活性化などに資するものとなるよう、発電事業者が配慮・実施すべき事項を定めた「地域に裨益（ひえき）する再生可能エネルギー事業の実施に関するガイドライン」を作成・公表し、同社にも同意する旨表明いただいた。市としては、このような事業計画を把握した場合には、市民の不安解消と事業の丁寧な説明を行うよう、事業者に対し情報提供や説明会の実施を求めていく。